

# 日章中学校



## Thanks Mail 本郷幼稚園

10月15日の職業体験学習の日には大変お世話になりました。私たちは来週の日曜日におこなわれる合唱コンクールに向けて、クラス一丸となって取り組んでいるところです。今回の職業体験で、幼稚園の先生という仕事がとても大変だということが分かりました。おゆうぎ会の練習など、私が見たときは、器楽もみんな覚えていましたが、最初から覚えるのは大変なんだろうなと思いました。今回の体験でとてもうれしかったことがありました。「先生あーのね!!」って言われたことです。最初は「先生」って言われておどろきましたが、すぐうれしかったです。私は将来、幼稚園の先生になりたいと思っているので、今回の体験をいかしていきたいと思っています。 3年 N・S



## 優しい気持ちをフル充電! 園児たちに向けた、あたたかな気配り・目配り

小さな子どもたちの声が響く賑やかでカラフルな幼稚園にやってきた、男女6名の生徒たち。2人ずつに分かれ、3歳児クラスで幼稚園の先生の体験です。最初は少し不安な表情をしていた生徒たちでしたが、元気いっぱい園児たちが緊張をほどいてくれたようです。

「だっこやおんぶをしているうちに、子どもたちとの距離が縮まりました」「このクラスの子の名前をいっぱい覚えていこうと思います」と話すのは、こあら組を担当した男子2名。園児をトイレに連れて行ってあげたり、転びそうな子を支えてあげたりと、愛情深く接していました。いちご組に向かった女

子2名は器楽演奏や劇の練習のサポート係として奮闘しました。「とってもかわいいです」「なついてきてくれて嬉しい」と、満面の笑みを浮かべます。とりわけ3歳の女の子たちは、中学生の優しいお姉さんの登場がよほど嬉しかったらしく、「お姉さん、見て見て!」とお気に入りのハンカチや自慢の粘土作品を代わる代わる見せています。さくら組の男子2名も「子どもたちが楽しそうで嬉しい」「たくさん話しかけてきてくれるので、ひとりひとりにきちんと対応したい」と優しくも真剣な眼差しで子どもたちと向き合っていました。



## 責任重大な“商品作り”に挑戦 真剣な横顔は職人さながら

(株)白石ゴム製作所

ゴム製品の製造・加工を手掛ける白石ゴム製作所で、この日男子5名が取り組んだのは2種のパッキン作り。大きく長い板状のパッキンと小さなドーナツ型のパッキンは、どちらもお客様に納品する大事な商品です。5名はそれぞれ異なる工程を任せられ、真剣に黙々と手を動かしていました。

ガシャンガシャン!と地響きがするほど大きな音がする機械で型抜きをしていた生徒は「初めは大きな音が少し怖かったけど、すぐ慣れました」と、手を休めることなく話してくれました。扱うゴムが薄い場合は、機械を使わず1枚1枚カッターで切り取る必要があります。

その作業をしていた生徒は「難しい」と言いながらも、体でしっかりコツをつかんだ様子です。

従業員の方々は「素直で真面目、覚えが早いですね」と、一歩離れたところから生徒たちを見つめ、ケガがないように、困ることがないようにと心を配っていただきました。

「今までは間違いや失敗を反省しなかったり、自分に甘いところがあったけど、商品作りは慎重にならないといけない。今日の作業を通して、自分に厳しくなれたと思います」「真剣にやれば仕事は楽しいと実感しました」と言う5名は、この1日で大切なことを見つけたようです。



## 心を込めて「いらっしゃいませ」 初めての接客で経験した緊張と喜び

(株)ホンダカーズ  
札幌中央

ピカピカの車が並ぶ広いショールーム。カウンターには、はにかんだ笑顔の少女の姿がありました。2人の生徒はこの日、会社と工場の説明を受けた後、挨拶や接客・電話対応の練習をし、実際にお客様を前にする本番に臨みました。「恥ずかしかったけど、大きな声で「いらっしゃいませ」と言えました」と、少し自信が持った様子です。また、スタッフの方に手ほどきを受けながら、お客様に飲み物を出しました。コーヒーをお盆に載せ、背筋を伸ばし、そろそろとした足取りでお客様のもとへ進みます。手に取りやすいようにカップの向きに注意してテーブルに置いたら、一歩下

がって深々とお辞儀。生徒はカウンターに戻ってくるなり「ドキドキした!でも、「ありがとう」と言ってもらえて嬉しかった」と、にっこりと嬉しそうに話してくれました。お客様も微笑ましく生徒を見てくださったようです。

お店では2人のために、スタッフの皆さんと同じ、ショップのロゴ入りの名札を用意してくださいました。その名札が彼女たちの胸元で誇らしげに揺れています。「首にかけた瞬間、気が引き締まりました」「宝物にします。社会人になったとき、これを見て今日のことを思い出します」と、この日感じたたくさんのことをかみしめていました。



# 柏丘中学校



## Thanks Mail

JICA札幌  
(独立行政法人国際協力機構)

先日は、職場体験学習をさせていただき大変貴重な経験をすることができました。本当にありがとうございました。  
さて、今回はたくさんの方を学ぶことができました。外国人の研修生の方と習字をして、英語で会話があまりできなかったのに、とても優しくしてくれて、話せなくてもわかってくれて、とてもうれしかったです。あと、開発途上国が百五十か国あり、世界の人口の八割が困った国に住んでいるのにおどろきました。ワークショップの世界の食卓で、日本がその開発途上国に依存していることがよく分かりました。そして国際協力が大切なことや、なぜ日本が国際協力するのかということもよく分かりました。 2年 K・O



## 生の英会話で世界との 違いや共通点を実感

「国際的な仕事や人助けの仕事をしたい」「外国人と交流したい」と話す男女11名の生徒たちが訪れたのはJICA札幌。開発途上国への援助事業を行う北海道の拠点です。

モザンビーク、ボツワナ、ルワンダなど14カ国、20～40代の男女20名の研修生たちとの交流は、3～4人のグループに分かれ、英語の自己紹介からスタート。日本語は一切使わず、自己紹介と仕事や趣味についてお互いに質問し合います。その後は、「和」という文字を生徒が筆で書き、それを見本にして研修生が書くという、ユニークな交流が行われました。担当の職

員さんは今回の体験の意義を「生の英語を体験すること、お互いの共通性や違いを見出すこと」と話します。

研修生から「日本は好きですか?なぜ、日本が好きですか?」「なぜ、習字を書くの?」など、日本語でも答えるのが難しい質問をされ、生徒たちは困惑顔です。通訳の方に助けていただき、なんとか答える場面もありました。

交流後は「英検3級なので自信があったけど、生の英語は違います」「英語でもゆっくりわかりやすく話してくれたので理解できた」「言葉はあまり通じなかったけど、楽しかった」と、晴れやかな表情で

JICA札幌  
(独立行政法人国際協力機構)

話す生徒たち。外国から来た研修生との交流を通じて、世界との距離が大きく縮まったようです。



## “裏方がいて、表が成り立つ” 社会人としての心得を伝授

誠寿司本店

「1に元気、2に元気、今日は元気良くお願いします」と職人さんが声をかけます。男子生徒4名は、緊張と気後れでしょうか、小さな声になってしまいましたが「よろしくお祈りします」と返事をして、でっけい牽公が始まりました。

生徒たちは「家でも、たまに寿司を握っています」「お寿司が好きなので握ってみたい」と瞳を輝かせ、寿司を握る気満々です。しかし、用意されていた仕事は「仕込み」と呼ばれる材料の下ごしらえ。イカの皮むきとエビの殻むきでした。イカの皮むきでは「初めてやったけど、手がすべって難しい」と、職人さんに手助けをもらいな

ら悪戦苦闘していました。

「カウンターで寿司を握るのが、仕事のすべてではありません。寿司屋の仕事は、実は目立たない裏の仕事が大事だと伝えたかったのです。将来仕事を決めるとき、どんな職業でも、目立つ仕事の裏には、地味な仕事の積み重ねがあることを思い出してほしい」と、職人さんは社会人としての心得を説きます。「表に立っていい仕事をするためには、しっかりした裏の仕事があつてこそ」と言う職人さんの力強いメッセージは、下ごしらえを通して生徒たちの心に響いたはず。体験の最後には念願の寿司を握らせてもらい、感激した様子一同でした。



## 店舗経営の苦勞と醍醐味 何事も根気よく誠実に取り組むことが大切

(株)ホクトスポーツ

ホクトスポーツは、創業32年のスポーツショップ。「スポーツ店も、商品を並べて販売するだけでなく、商品知識を学んだり在庫の管理など手間ひまかけないと営業できません。在庫確認などに根気よく丁寧に取組んで、その上、心のこもった接客ができる」と完璧ですね」と店長さんがおっしゃいます。

この日訪れたのは、市内でも強豪の野球部員を含むスポーツ好きの男子6人。午前中は店内の掃除、午後からは野球グッズ、ソックス、アンダーウェアなど商品の在庫確認です。2人1組になり、1人が陳列してある商品名、価格、個数を報告し、もう1人がそれを用紙に記入

します。張り切って順調に進むチーム、2人の息が合わず何度も数え間違えて手間取っているチーム、淡々と作業をこなすチームと、様子はそれぞれです。在庫確認の間にお客さんが来店すると、「いらっしゃいませ」と自然に大きな声で挨拶できたチームもありました。「これだけ声が出るのなら、すぐにでも動くことができるね」と店長さんからおほめの言葉をいただき、2人は照れくさそうでした。対象的に、簡単に思えた仕事が想像と違い、焦りと困惑で集中できないまま時間が過ぎていくチームもあり、店舗経営の苦勞や醍醐味を垣間見た6人でした。

